

令和4年度 中名田小学校学校評価シート No.1

重点目標	具体的取組	備考	評価の観点・目標指数	判断基準	%	前期評価		後期評価		成果・課題	改善策・向上策				
						前期評価	%	後期評価	%						
よ／考／え／の／こ／ろ	1 自ら考え、仲間と学びあう児童の育成	・3S学習を基盤とした「わかる・できる」授業の実践	3 S学習を基盤とした「わかる・できる」授業づくりに努める。	あなたは、3 S学習を基盤とした「わかる・できる」授業作りに取り組んでいますか。		A+B		A 50.0%	B 50.0%	C 0.0%	D 0.0%				
				A 取り組んでいる。(授業時間の90%以上)	A							25.0%			
				B どちらかとうと取り組んでいる。(授業時間の80%以上)	B							75.0%			
				C どちらかとうと取り組んでいない。(授業時間の70%以上)	C							0.0%			
			【目標指数】A+Bが80%以上	D 取り組んでいない。	D	0.0%									
			学習内容が理解できた。	あなたは、これまで学習してきた内容について理解できましたか。		A+B		A 70.8%	B 29.2%	C 0.0%	D 0.0%	70.8%	A+B		
				A ほぼ理解できた。	A										75.0%
				B だいたい理解できた。	B										25.0%
				C あまり理解できなかった。	C										0.0%
	【目標指数】A+Bが80%以上	D 理解できなかった。	D	0.0%											
	児童は、学習内容を理解しているか。	お父さんは、学習内容を理解していますか。		A+B		A 54.2%	B 41.7%	C 4.2%	D 0.0%	54.2%	A+B				
		A ほぼ理解している。	A										41.7%		
B だいたい理解している。		B	54.2%												
C あまり理解していない。		C	4.2%												
【目標指数】A+Bが80%以上	D 理解していない。	D	0.0%												
2 確かな学力の育成	・みんな調べでの対話的学習	対話的学習を取り入れた授業作りを努める。	対話的学習を取り入れた授業作りを努める。	あなたは、みんな調べで対話的学習を取り入れた授業を行っていますか。		A+B		A 50.0%	B 50.0%	C 0.0%	D 0.0%				
				A 行っている。(授業時間の90%以上)	A							75.0%			
				B どちらかとうと行っている。(授業時間の80%以上)	B							25.0%			
				C どちらかとうと行っていない。(授業時間の70%以上)	C							0.0%			
			【目標指数】A+Bが80%以上	D 行っていない。	D	0.0%									
			自分の考えを深めたり、広げたりできた。	あなたは、授業中に友達と意見を交換し、自分の考えを深めたり、広げたりすることができましたか。		A+B		A 58.3%	B 37.5%	C 0.0%	D 4.2%	58.3%	A+B		
				A できた。	A										62.5%
				B どちらかとうとできた。	B										37.5%
				C どちらかとうとできなかった。	C										0.0%
【目標指数】A+Bが80%以上	D できなかった。	D	0.0%												
児童は、家庭で、自分の思いや考えを伝えているか。	お父さんは、家庭で、自分の思いや考えを自分の言葉で伝えられていますか。		A+B		A 54.2%	B 45.8%	C 0.0%	D 0.0%	54.2%	A+B					
	A 伝えられている。(自分から進んで思いや考えを伝えられる。)	A										54.2%			
	B どちらかとうと伝えられている。(声をかけられたら思いや考えを伝えられることができる。)	B										45.8%			
	C どちらかとうと伝えられていない。(自分の思いや考えを時々伝えられる。)	C										0.0%			
【目標指数】A+Bが80%以上	D 伝えられていない。	D	0.0%												

・あまり理解できていないように思っている保護者もいたが、全体的に見ると児童も、保護者も、学習内容はほぼ理解できていると評価している。教員の3S学習を基盤とした「わかる・できる」授業作りに取り組めたという成果が出ている。

・今年度同様に、3S学習を基盤とした「わかる・できる」授業作りを取り組み、個に応じた指導を行っていく。
・一人一台端末を活用した授業や思考ツールを使った授業の研修なども深めていく。

・対話的学習を取り入れた授業を1年を通して行ってきたが、評価結果を見ると後期に伸びが見られなかった。
・児童の中に、できなかったと自分を評価している児童がいた。

・単元や学習内容を深く研究し、効果的に対話的学習を取り入れた授業を行う。
・少人数であるため、より多くの人の考えに触れるさせることが大切になる。他校や地域の人などの交流学習も積極的に取り入れていく。

子ども	3 表現力の育成	・計画的な学級会・討論会の設定	教職員	学級会や討論会の充実を図る。	あなたは、学級会や討論会において、意見のやりかたできるリーダーの育成や相手の意見に呼応した意見発表ができるように計画的に指導しましたか。	A できた。	A	66.7%	100.0%	A+B		A	A	66.7%	95.8%	A+B		66.7%	・意見交換会や討論会を計画的に実施したことで、自分の考えをしっかりと持った上で、友達の意見を聞いて考え発表することができるようになったと評価する児童が増えた。	・児童が様々な視点で考えられるテーマ設定を行い、継続して意見交換会や討論会を実施する。 ・授業や学級会等で、話し合った内容をリーダーが黒板にまとめる機会を多く作り、まとめる力をつけていく。
				B どちらかとうとできた。	B	33.3%	B	33.3%												
				C どちらかとうとできなかった。	C	0.0%	C	0.0%												
				【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%	D	0.0%												
			児童	学級会や討論会に積極的に参加することができる。	あなたは、学級会や討論会で、みんなの意見をまとめたり、友だちの意見に対して自分の考えを発表したりすることができましたか。	A できた。	A	66.7%	100.0%	A+B		A	A	54.2%	100.0%	A+B		54.2%		
				B どちらかとうとできた。	B	20.8%	B	37.5%												
				C どちらかとうとできなかった。	C	12.5%		C	8.3%											
				【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%		D	0.0%											
	4 社会に出て生きてはたらく力の育成	・ふるさと学習を核とした探究的な学習の実践	教職員	ふるさと学習において、児童が地域人材と交流できる場を設定する。	あなたは、ふるさと学習において、児童が地域人材と一緒に活動したり意見交流をしたりする場を適切に設定することができましたか。	A できた。	A	100.0%	87.5%	A+B		A	A	100.0%	91.7%	A+B		100.0%	・今年度は、地域の人との交流する機会が多かったことで、ふるさとについて深く考えることができた児童が増えた。	・今年度の学びから生まれた課題解決に向けて、更に地域の人に協力いただき、「中名田」「小浜」について学習を深めていく。
				B どちらかとうとできた。	B	0.0%	B	0.0%												
C どちらかとうとできなかった。				C	0.0%	C	0.0%													
【目標指数】A+Bが80%以上				D	0.0%	D	0.0%													
児童			地域の人と協力して活動したり、地域の人の話を聞いたり、自分の思いや考えを伝えたりできる。	あなたは、地域の人と協力して活動したり、地域の人の話を聞いて自分の考えを持ちたりすることができましたか。	A できた。	A	58.3%	100.0%	A+B		A	A	79.2%	100.0%	A+B		79.2%			
			B どちらかとうとできた。	B	29.2%	B	16.7%													
			C どちらかとうとできなかった。	C	12.5%		C	4.2%												
			【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%		D	0.0%												

令和4年度 中名田小学校学校評価シート No.2

	重点目標	具体的取組	備考	評価の観点・目標指数	判断基準	%	H1E	前期評価				H2E	後期評価				成果・課題	改善策・向上策
								A	B	C	D		A	B	C	D		
思いやるの ある子	1 道徳教育の充実	・思いやりの心、認め合う心を育てるための教育活動	教職員	教育活動全体を通して、相手を思いやる心、認め合う心を育てるための指導に取り組むことができる。	あなたは、教育活動全体を通して、相手を思いやる心、認め合う心を育てるための指導に取り組むことができましたか。		○	A+B		A: 80.0% B: 20.0% C: 0.0% D: 0.0%	○	A+B		80.0%	・教員は、思いやりや認め合うことを意識して指導することができた。 ・児童、保護者の中に、できなかったと評価が、4%～8%（1～2名）見られる。前期より後期の方が、より自分や児童のことを客観的に評価できたからと考える。	・道徳授業の充実を図るとともに、普段の学校生活の中で、思いやりのある行動や互いを認め合う行動を積極的に評価する。		
				A できた。	A	75.0%												
				B どちらかという 못했다。	B	25.0%												
				C どちらかというできなかった。	C	0.0%												
				【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%												
				児童	友達に対し、思いやりの心を持って接したり、認め合ったりすることができる。	あなたは、友達に優しくしたり、頑張っている友達を励ましたりすることができましたか。		○	A+B		A: 79.2% B: 16.7% C: 4.2% D: 0.0%	○	A+B				79.2%	
					A できた。	A	79.2%											
					B どちらかという 못했다。	B	20.8%											
					C どちらかというできなかった。	C	0.0%											
【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%																
保護者	児童は、友達に対し、思いやりの心を持って接したり、認め合ったりすることができる。	お子さんは、友達に優しくしたり、頑張っている友達を励ましたりすることができていましたか。		○	A+B		A: 33.3% B: 58.3% C: 8.3% D: 0.0%	○	A+B		33.3%							
	A できていた。	A	45.8%															
	B どちらかという 못했다。	B	45.8%															
	C どちらかというできなかった。	C	8.3%															
【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%																
2 人権教育の充実	2 人権教育の充実	・誰に対しても進んで挨拶ができる教育活動の工夫	教職員	挨拶ができる子の育成に取り組んでいる。	あなたは、児童たちが誰に対しても挨拶ができるような、取り組みができましたか。		○	A+B		A: 50.0% B: 50.0% C: 0.0% D: 0.0%	○	A+B		50.0%	・教員、児童は「できた」「どちらかといえどできた」が100%で、高い意識を継続している。 ・保護者の中に、できなかったと評価が、8%（2名）見られる。	・委員会で行っている「挨拶運動」を、継続するとともに、家庭でも挨拶の習慣化（しつけ）に協力していただけるよう、保護者懇談やたより、通信等で呼びかける。		
				A できた。	A	100.0%												
				B どちらかという 못했다。	B	0.0%												
				C どちらかというできなかった。	C	0.0%												
			【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%													
			児童	挨拶するように心がけている。	あなたは、出会った人に進んで挨拶ができましたか。		○	A+B		A: 75.0% B: 25.0% C: 0.0% D: 0.0%	○	A+B		75.0%				
				A できた。	A	83.3%												
				B どちらかという 못했다。	B	16.7%												
				C どちらかというできなかった。	C	0.0%												
			【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%													
			保護者	児童は、挨拶ができるように心がけている。	お子さんは、出会った人に挨拶をすることができていましたか。		○	A+B		A: 41.7% B: 50.0% C: 8.3% D: 0.0%	○	A+B		41.7%				
				A できていた。（誰に対しても挨拶ができた）	A	37.5%												
B どちらかというできていた。（知っている人に挨拶ができた）	B	58.3%																
C どちらかというできていなかった。（相手が挨拶をしたら挨拶ができた）	C	4.2%																
【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%																
3 ポジティブ教育の推進	3 ポジティブ教育の推進	・自己肯定感を高める授業や学校行事の実践	教職員	授業や行事において、児童の肯定感が高まる指導に取り組むことができる。	あなたは、授業や行事において、児童の肯定感が高まる指導に取り組むことができましたか。		○	A+B		A: 60.0% B: 40.0% C: 0.0% D: 0.0%	○	A+B		60.0%	・教員、児童、保護者すべて「できた」「どちらかといえどできた」が100%。	・授業や学校行事で、児童の活躍する場面を増やし、積極的に評価した成果だと考える。この方向を継続、発展させる。		
				A できた。	A	80.0%												
				B どちらかという 못했다。	B	20.0%												
				C どちらかというできなかった。	C	0.0%												
			【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%													
			児童	授業や学校行事において、自分は力を発揮し、貢献できたと感じている。	あなたは、授業や学校の行事などで、目標に対して精一杯頑張ることができましたか。		○	A+B		A: 79.2% B: 20.8% C: 0.0% D: 0.0%	○	A+B		79.2%				
				A できた。	A	75.0%												
				B どちらかという 못했다。	B	25.0%												
				C どちらかというできなかった。	C	0.0%												
			【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%													
			保護者	児童は、授業や学校行事で、自分は力を発揮し、貢献できたと感じている。	お子さんは、授業や学校行事に積極的に取り組んでいましたか。		○	A+B		A: 54.2% B: 45.8% C: 0.0% D: 0.0%	○	A+B		54.2%				
				A よく取り組んでいた。	A	56.5%												
B どちらかという取り組んでいた。	B	43.5%																
C どちらかという取り組んでいなかった。	C	0.0%																
【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%																

	重点目標	具体的取組	備考	評価の観点・目標指数	判断基準	%	判定	前期評価		後期評価		成果・課題	改善策・向上策	
健康でたくましい子	1 健やかな体・粘り強い心の育成	・基礎体力向上のための工夫	教職員	業間マラソンやなわとびの目標を達成させるための指導を工夫している。	あなたは、学校行事、教科体育、業間活動を運動させながら、児童に目標を持たせ、それが達成できるような指導を工夫できましたか。			A+B		100.0%	A+B		100.0%	
				A できた。	A	66.7%	A							100.0%
				B どちらかというとできた。	B	33.3%	B							0.0%
				C どちらかというときなかつた。	C	0.0%	C							0.0%
				【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%	D							0.0%
				マラソンやなわとびに目標を持って取り組んでいる。	あなたは、マラソンやなわとびの目標が達成できるよう、業間活動や体育にしっかりと取り組みましたか。			A+B		95.8%	A+B		100.0%	
				A 取り組めた。	A	83.3%	A							79.2%
				B どちらかという取り組みた。	B	12.5%	B							20.8%
				C どちらかという取り組みなかつた。	C	4.2%	C							0.0%
				【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%	D							0.0%
2 危険予知、危機回避能力育成	・安全学習、保健指導の実施 ・防災意識の向上と危機回避能力を高める訓練および指導の充実	教職員	日常生活の中に潜む様々な危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動がとれるように指導している。	あなたは、日常生活（手洗い、喚起等）、様々な交通場面、災害発生時における危険について理解し、正しい備えと適切な行動がとれるような指導ができましたか。			A+B		100.0%	A+B		100.0%		
			A できた。	A	100.0%	A							100.0%	
			B どちらかというときできた。	B	0.0%	B							0.0%	
			C どちらかというときなかつた。	C	0.0%	C							0.0%	
			【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%	D							0.0%	
			様々な場面で発生する危険を予測し、進んで安全な行動ができる。	あなたは、感染予防対策や交通安全等の取り組みを通して、危険を予測し、進んで安全な行動ができましたか。			A+B		100.0%	A+B		95.8%		
			A できた。	A	79.2%	A							66.7%	
			B どちらかというときできた。	B	20.8%	B							29.2%	
			C どちらかというときなかつた。	C	0.0%	C							4.2%	
			【目標指数】A+Bが80%以上	D	0.0%	D							0.0%	
健康	3 家庭と連携した心身の健康バランスのとれた生活習慣の確立	・家庭と連携した基本的な生活習慣の定着	児童	機会を捉えてメディアとの接し方について、指導する。	あなたは、子ども達がおうちの人と一緒に決めた時間を守り、メディア（テレビ・動画・SNS・ゲーム等）を正しく活用するように指導することができましたか。									
				・教職員・児童は、ほぼできていたと答えている	・今年度同様、ノーマディアウィークを行いメ									

対象者	質問内容	回答	割合	達成率	グラフ	備考
教職員	【目標指数】A + B が 80%以上	A できた。	25.0%	100.0%		○
		B どちらかというどできた。	75.0%			
		C どちらかというどできなかった。	0.0%			
		D できなかった。	0.0%			
児童	【目標指数】A + B が 80%以上	あなたは、おうちの人と一緒に決めた時間を守り、メディア（テレビ・動画・SNS・ゲーム等）を正しく活用することができましたか。		91.7%		○
		A できた。	70.8%			
		B どちらかというどできた。	20.8%			
		C どちらかというどできなかった。	4.2%			
保護者	【目標指数】A + B が 80%以上	お子さんは、おうちの人と一緒に決めた時間を守り、メディア（テレビ・動画・SNS・ゲーム等）を正しく活用することができましたか。		60.9%		●
		A できていた。	13.0%			
		B どちらかというどできていた。	47.8%			
		C どちらかというどできていなかった。	34.8%			
	D できていなかった。	4.3%				

が、保護者の半数弱はできていなかったと答えている。
 ・児童は、ノーメディアウィークなど決められている期間の中では、使用時間を調整することができていた。
 ・ノーメディアウィークで使用している「げんきっカード」の保護者からのコメント欄には、「ノーメディアウィークでないときも、使用時間を考えて欲しい」といった意見が多かったため、ノーメディアウィーク以外での児童のメディア使用時間が長いのではないかと考えられる。

ディア使用時間を見直す機会をつくる。
 ・ノーメディアウィーク以外の日でも児童が家庭で自制できるような取り組みを保護者と学校が連携して行う必要がある。

令和4年度 中名田小学校学校評価シート No.4

	重点目標	具体的取組	備考	評価の観点・目標指数	判断基準	%	前期評価				後期評価				成果・課題	改善策・向上策
							○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎		
ふるさと大好きっ子	1 ふるさと小浜、中名田に誇りと愛着を持つ児童の育成	・地域人材や教育的資源を利用し、創造的なふるさと学習の展開	教職員	地域の教育的資源を活用し、創造的なふるさと学習を展開している。	あなたは、地域の教育的資源を利用し、創造的なふるさと学習を展開することができましたか。		A+B		A	100.0%	A+B		愛宕ランドでは、保育園と、2学期からは公民館やゆめづくり協議会、中名田地区スポーツ協会などと連携し、一緒に活動したり、地域についての話を聞いたりすることができ、児童に地域の高さに気づかせ、地域への愛着を高めることができました。	年度初めにふるさと教育を通して付けたい資質能力、目指す児童像を共通理解し、1年間の大きな計画を立て、学期が始まる前には少し詳しい計画を立てると、もっと地域の資源を活かした深まりのある活動ができる。		
				A できた。	B	0.0%			2学期になってもはつきりとした方向性がたえず、ダイナミックな活動や、予算の有効活用ができなかった。満足なふるさと学習と関連を持たせてできると良かった。							
				B どちらかという 못했다。	C	0.0%										
				C どちらかというできなかった。	D	0.0%										
				【目標指数】A+Bが80%以上		100.0%										
						100.0%										
	・ふるさとの未来や自分の生き方を考える授業の構築	教職員	ふるさとの未来や自分の生き方を考えさせる授業を工夫して展開している。	あなたは、ふるさと学習の授業展開を工夫することで、児童のふるさとを大事に思う心を育てることができましたか。		A+B		A	66.7%	A+B		前期後期とも、ふるさとを大好きと思う児童は多い。後期より前期の評価が高い理由は、前期は、愛宕ランドの活動が主であり、一つのことしにじっくり取り組み、自分達で計画をたてて活動ができたこと、保育園児に喜んでもらったことで満足感が高くなっていると思われる。また、ふるさとの自然の中での直接体験が、児童のふるさとへの愛着心を高めたとと思われる。	今年度の活動から出た課題について、今年度できたつながりを活かしながら、児童自らが計画を立て、じっくりと解決していく時間を取ることが大切である。直接体験ができるように、支援体制を作っていくかなければいけない。今年度は、3～6年生が一緒に活動を行ったが、グループで活動するのであれば、地域のボランティアの方等の協力も依頼するとよい。			
			A できた。	B	33.3%			保護者が後期を評価しているのは、中名田ウオーキングでいっしょに活動することができたからだと考える。								
			B どちらかという 못했다。	C	0.0%			児童と保護者にずれがあるが、1学期は活動の様子を発表する機会がなかったが、中名田ウオーキングでは、児童の活動の様子を生で見ることができたため、保護者の評価が高くなったと思われる。								
			C どちらかというできなかった。	D	0.0%											
			【目標指数】A+Bが80%以上		100.0%											
					100.0%											
児童	児童は、ふるさと学習を通して、ふるさとを誇りに感じ大好きと思うようになっている。	あなたは、ふるさと学習を通して、ふるさと（中名田や小浜）を大好きになりましたか。	A	95.8%	A+B		A	83.3%	A+B							
			B	4.2%			B	16.7%								
			C	0.0%			C	0.0%								
			【目標指数】A+Bが80%以上	D			0.0%	D			0.0%					
							100.0%									
							100.0%									
保護者	児童は、ふるさとを大事に思っている。	お子さんは、ふるさと学習を通して、ふるさと（中名田や小浜）を大事に思うようになりましたか。	A	21.7%	A+B		A	58.3%	A+B							
			B	78.3%			B	41.7%								
			C	0.0%			C	0.0%								
			【目標指数】A+Bが80%以上	D			0.0%	D			0.0%					
							100.0%									
							100.0%									
ふるさと大好きっ子	2 地域との積極的な連携（地域とともにある学校づくり）	・各種便り・ホームページ等による教育活動の公開	保護者	学校のホームページ等から、学校の教育内容がよく分かる。	学校は、ホームページ等を用いて、教育活動を適切に伝えていっていると思いませんか。		A+B		A	52.2%	A+B		学校の取組み等を写真を変えながら発信することができた。	来年度も保護者や地域の方に、学校の取組み等を分かりやすく発信していく。		
				A 思う。	B	47.8%			B	20.8%						
				B どちらかというと思う。	C	0.0%			C	0.0%						
				C どちらかというと思わない。	D	0.0%			D	0.0%						
				【目標指数】A+Bが80%以上		100.0%										
						100.0%										